荒神橋の由来

江戸時代から明治大正昭和初期に至る
今市の歴史とともに

今市宿の始まり

戦国騒乱の時代に（550年前）、今村７軒と呼ばれわずか７軒くらいの小さな村であった。瀬川村や平ケ崎村より新しい。

江戸に幕府が開かれ、徳川家の霊をまつる東照宮が日光山に造営されるようになり、日光街道にそうだいな市場町、宿場町として発展してきた。

《主な産業》

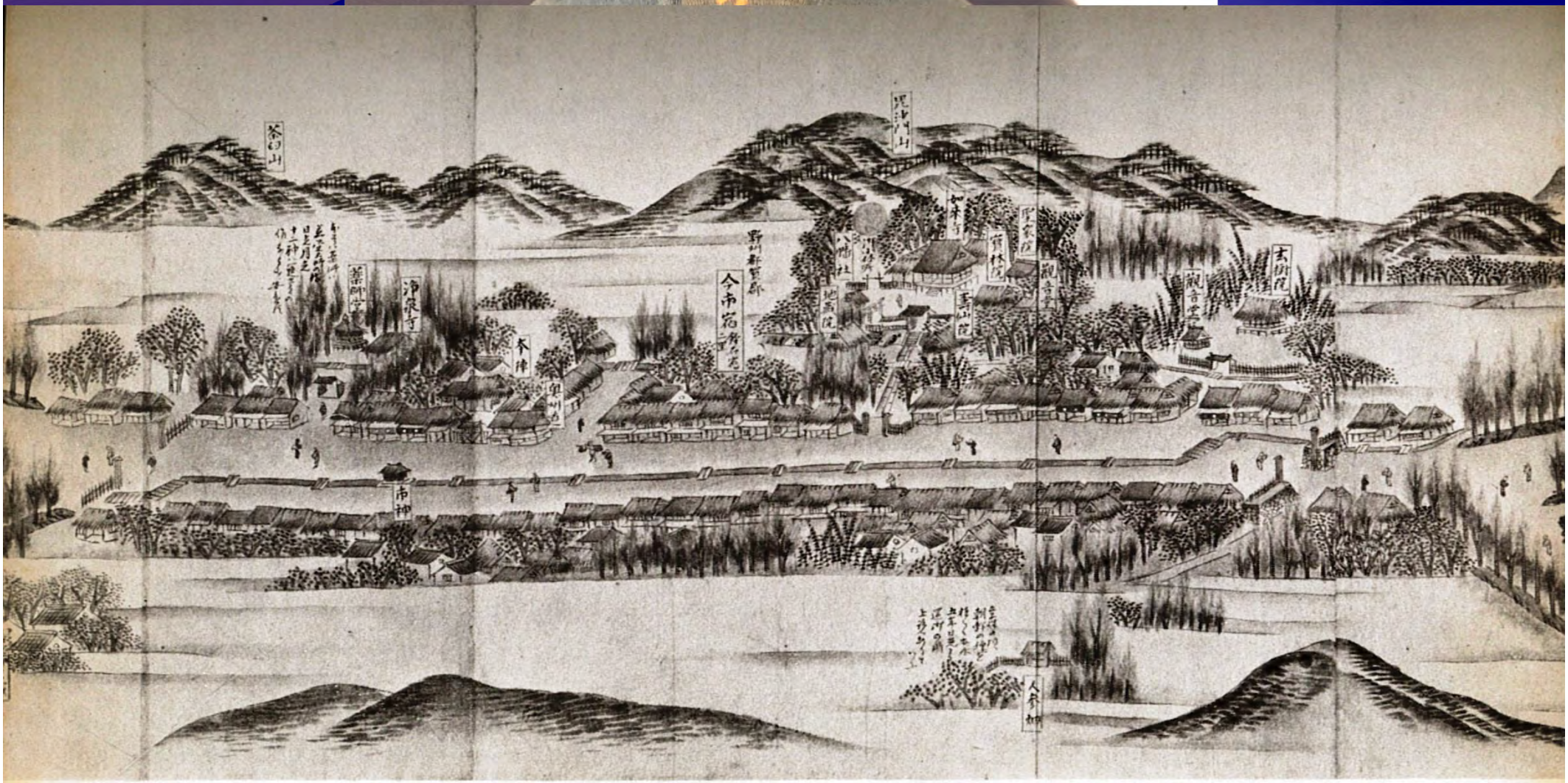
線香業　　元治元年（１８６４年）

醸造業　　寛文年間（１６６１～１６６９年）大橋氏

　　天保１３年（１８４２年）渡辺氏初代文平氏が始める。

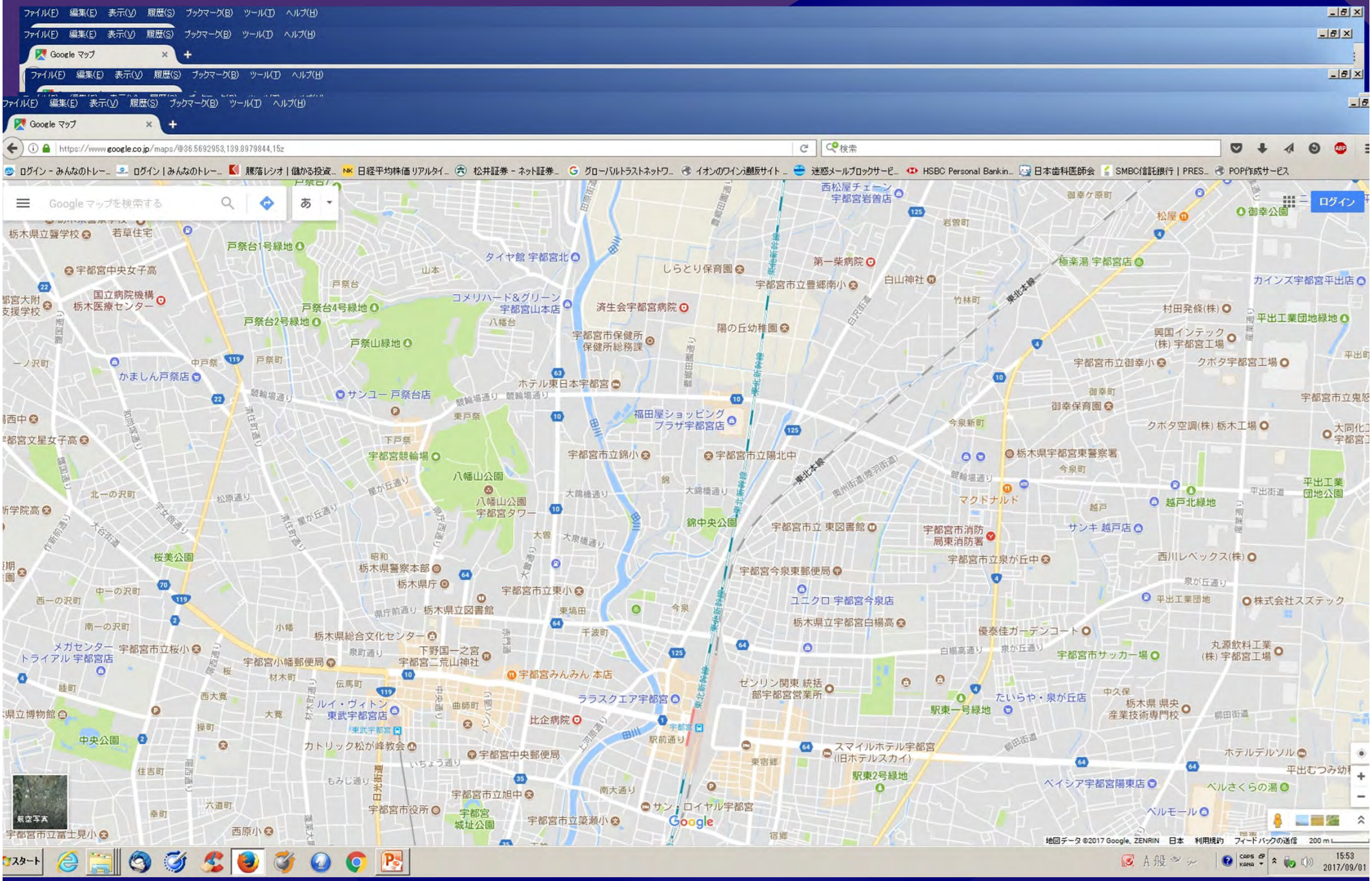
朝鮮人参栽培

鍛冶屋



今　市　宿　の　図（「日光道中図絵」より）

たばこ
た
は


ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 履歴(S) ブックマーク(B) ツール(T) ヘルプ(H)
Google マップ
https://www.google.co.jp/maps/@36.5692953,139.8979844,15z
Google マップを検索する
ログイン
戸祭台1号緑地
タイヤ館 宇都宮北
しらとり保育園
第一柴病院
宇都宮市立豊郷南小
白山神社
極楽湯 宇都宮店
カインズ宇都宮平出店
宇都宮中央女子高
国立病院機構 栃木医療センター
戸祭台4号緑地
戸祭台2号緑地
コメリハード&グリーン 宇都宮山本店
済生会宇都宮病院
陽の丘幼稚園
宇都宮市保健所 保健所総務課
戸祭山緑地
かましん戸祭店
サンユー 戸祭台店
ホテル東日本宇都宮
福田屋ショッピングプラザ宇都宮店
宇都宮市立錦小
宇都宮市立陽北中
宇都宮競輪場
八幡山公園
八幡山公園 宇都宮タワー
錦中央公園
宇都宮市立 東図書館
宇都宮市消防局東消防署
宇都宮市立泉が丘中
宇都宮今泉東郵便局
ユニクロ 宇都宮今泉店
栃木県立宇都宮白楊高
栃木県宇都宮東警察署
マクドナルド
越戸北緑地
サンキ 越戸店
西川レベックス(株)
株式会社スズテック
優泰佳ガーデンコート
宇都宮市サッカー場
丸源飲料工業 (株) 宇都宮工場
村田発條(株)
平出工業団地緑地
興国インテック (株) 宇都宮工場
宇都宮市立御幸小
クボタ宇都宮工場
御幸保育園
クボタ空調(株) 栃木工場
宇都宮市立鬼怒
大同化工 宇都宮工
平出工業団地公園
桜美公園
栃木県警察本部
栃木県庁
栃木県立図書館
宇都宮市立東小
栃木県総合文化センター
下野国一之宮 宇都宮二荒山神社
宇都宮小幡郵便局
宇都宮みんみん 本店
メガセンター トライアル 宇都宮店
宇都宮市立桜小
ルイ・ヴィトン 東武宇都宮店
東武宇都宮
カトリック松が峰教会
宇都宮中央郵便局
比企病院
ララスクエア宇都宮
ゼンリン関東 統括部宇都宮営業所
たいらや・泉が丘店
駅東一号緑地
栃木県 県央産業技術専門校
スマイルホテル宇都宮 (旧ホテルスカイ)
駅東2号緑地
ホテルデルソル
ベイシア宇都宮陽東店
ベルさくらの湯
ベルモール
宇都宮市立旭中
宇都宮市役所
宇都宮城址公園
宇都宮市立築瀬小
サン・ロイヤル宇都宮
宇都宮市立富士見小
西原小
中央公園
中一の沢町
西一の沢町
南一の沢町
北一の沢町
中戸祭
戸祭町
下戸祭
東戸祭
戸祭台
山本
八幡台
一ノ沢町
陽西中
宇都宮文星女子高
栃木県立聾学校
若草住宅
宇都宮大附 支援学校
西松屋チェーン 宇都宮岩曽店
岩曽町
御幸ケ原町
松屋
御幸公園
竹林町
今泉新町
今泉町
越戸
平出町
平出街道
平出工業団地
御幸町
東北本線
東北新幹線
田川
白沢街道
日光街道
奥州街道(陸羽街道)
大谷街道
宇都宮環状道路
宇都宮市 東図書館
宇都宮市立泉が丘中
宇都宮今泉東郵便局
宇都宮市立陽北中
宇都宮市立錦小
宇都宮市立東小
宇都宮市立旭中
宇都宮市役所
宇都宮城址公園
宇都宮市立築瀬小
宇都宮市立富士見小
宇都宮市立冨士見小
宇都宮市立桜小
宇都宮市立博物館
宇都宮市立宇都宮中央女子高
宇都宮市立御幸小
宇都宮市立鬼怒
宇都宮市立泉が丘中
宇都宮市立東小
宇都宮市立旭中
宇都宮市立築瀬小
宇都宮市立冨士見

貢献しました。郷土　明治維新の塩野室　尊王・明治年間　青木尚徳

石碑が、いまも塩野室にたっています。

大橋静庵塾　今市　文化・文政年間　大橋善兵衛貞徳

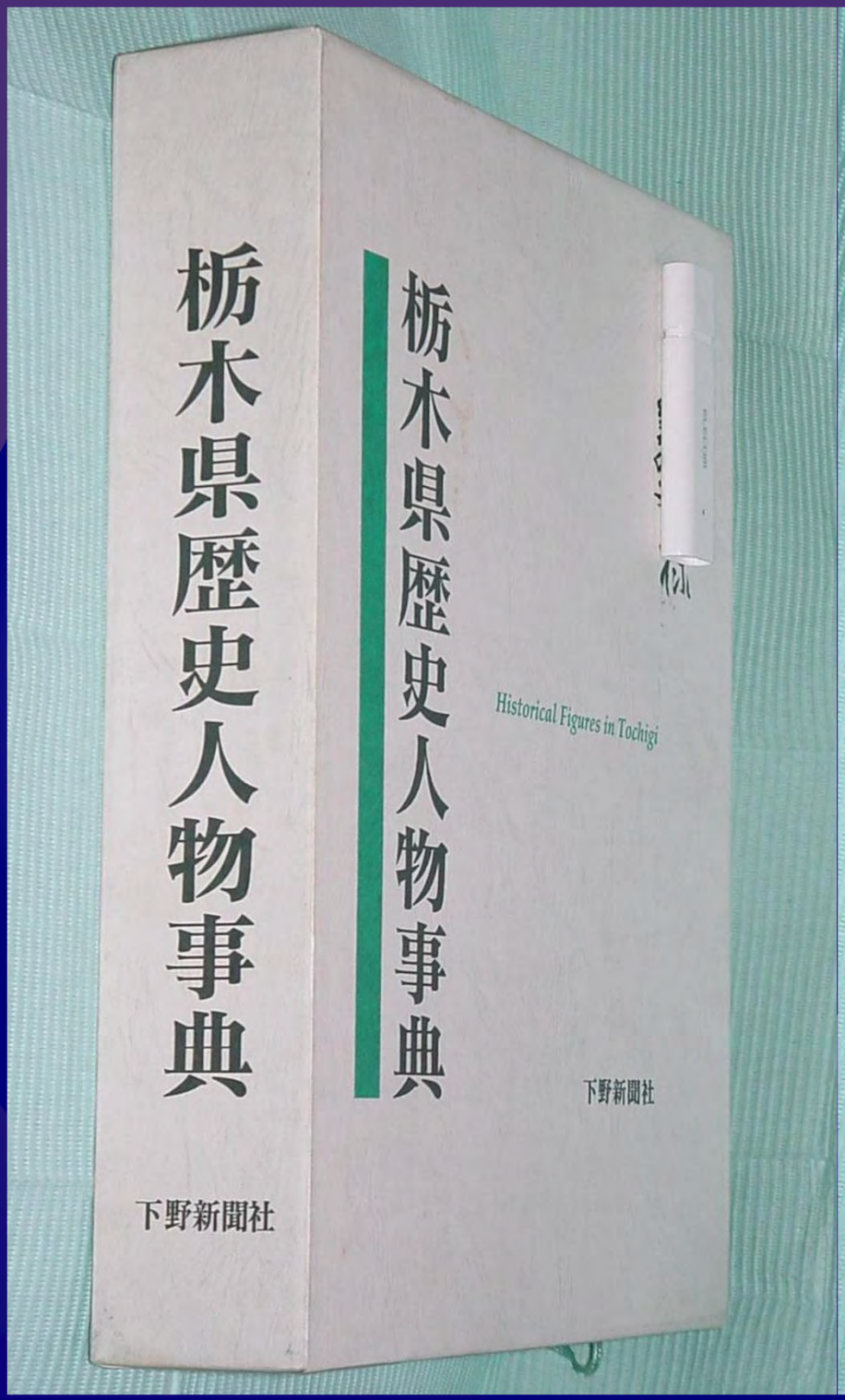
善兵衛の家は今市宿の名主をつとめた大橋覚左衛門の別家で代々酒造業をいとなむ旧家でしたが、火災にあい、そのうえ子どもの時に父を失って、いちじは家運もかたむきかけました。しかし善兵衛は十九才で本陣の役を受けつぎ、二十四才のとき今市宿の名主、問屋の役を兼務して町のためにはたらきました。善兵衛は子どものころから学問にはげみ、鹿沼の学者鈴木石橋先生のもとで儒学をまなび、さらに江戸の大学者太田錦城の門にはいって、学問の研究を続けました。今市へ帰ってきてからは静庵と号し、自分の家や町のためにはたらきながら、近所の人や親類の

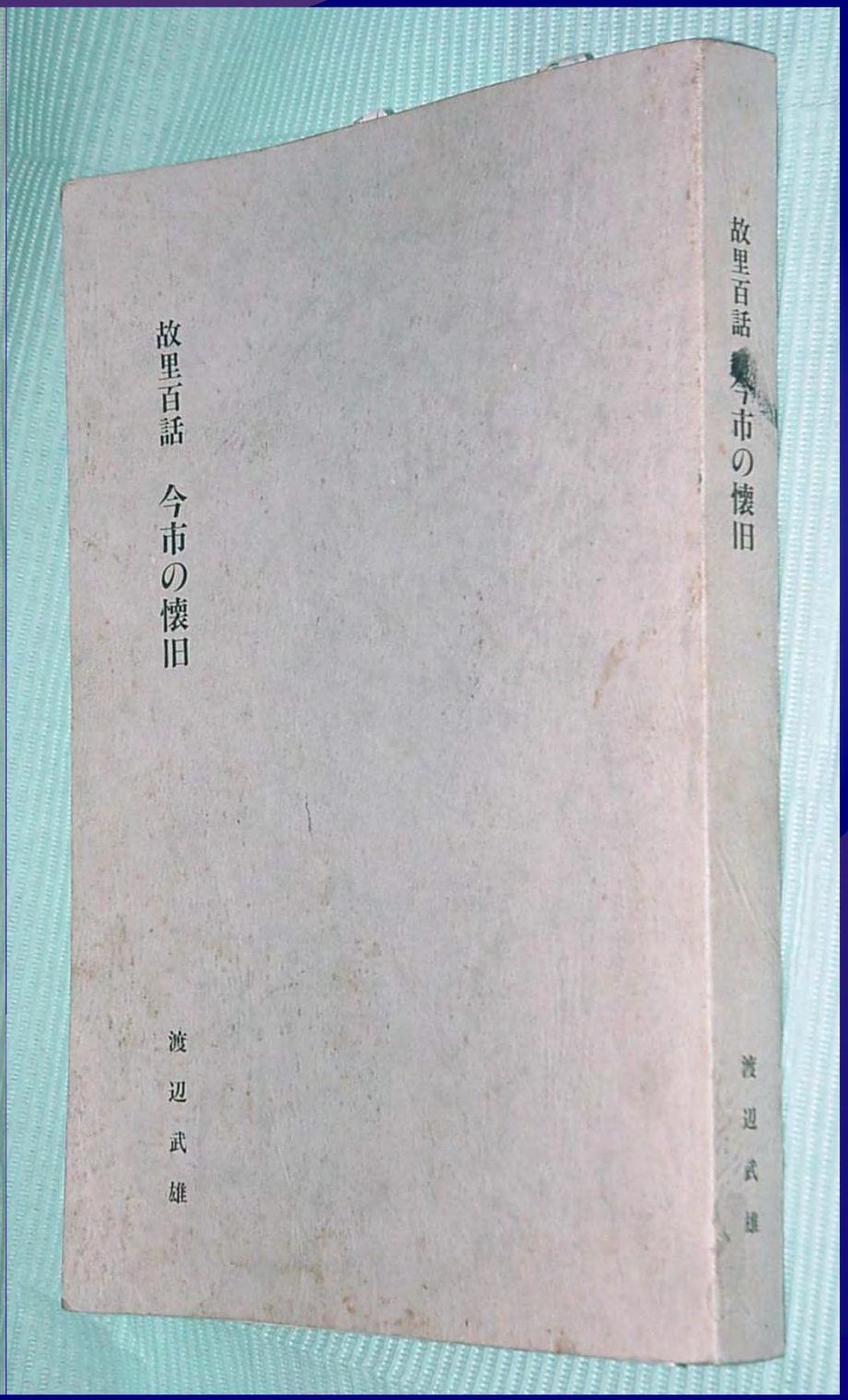
子どもたちを集めて学問を教えました。また天保五年（一八三四）には、町のためにはたらいた手柄をみとめられて、幕府から大橋という苗字をもちいることと帯刀を許されました。明治元年、善兵衛は川治温泉で八十二才の一生を終え、今もその墓が川治に残っています。

昌磧塾　吉沢　文政年間　吉原昌磧

昌磧は、八才のときから日光山実教院の僧について国学や漢学をまなび、さらに東照宮の侍医山中道仙や水戸の仁寿庵に医術をまなびましたが、文政年間に吉沢の荒神橋に帰り、医者として開業しました。昌磧は、医者の仕事のかたわら近所の子どもたちを集めて学問を教授しましたが、明治元年に八十八才でなくなりました。吉沢には、今も吉原昌磧の教えを受けた人たちがたてた石碑が残っています。

(4)　治二十五年に八十五才でなくなりましたが、三百五十人におよぶ門人たちがたてた石碑が、今も


栃木県歴史人物事典
栃木県歴史人物事典
Historical Figures in Tochigi
下野新聞社
下野新聞社


故里百話　今市の懐旧
渡辺武雄
故里百話　今市の懐旧
渡辺武雄

荒神橋

宇高谷の東端　旧例幣使街道の江川（いま田川）に架けられ荒神橋といい室瀬村と境ずる　近くの荒神大神からとられての命名とつたえる　日光道中雑記に「小川ありて橋掛る　名詳ならず　石川なり兜川に流れる」と載せられており日光道中行程記安見絵図は室瀬川としている　明治期には幅二間半長さ六間の木橋が架けられていた　成徳四年（一七一四）日光御法会により公儀で架け替えられ　寛政五年（一七九三）及び享和三年修復が行われた記録が残っている　その他本村の橋梁について文久三年（一八六三）森友吉沢村境橋の流矢架け替え　明治八年栃木通り権現塚・宇都宮道七本桜架橋普請などが明らかになっている

残っている　その他本村の橋梁について文久三年（一八六三）森友吉沢村境橋の流矢架け替え　明治八年栃木通り権現塚・宇都宮道七本桜架橋普請などが明らかになっている

昌磧塾

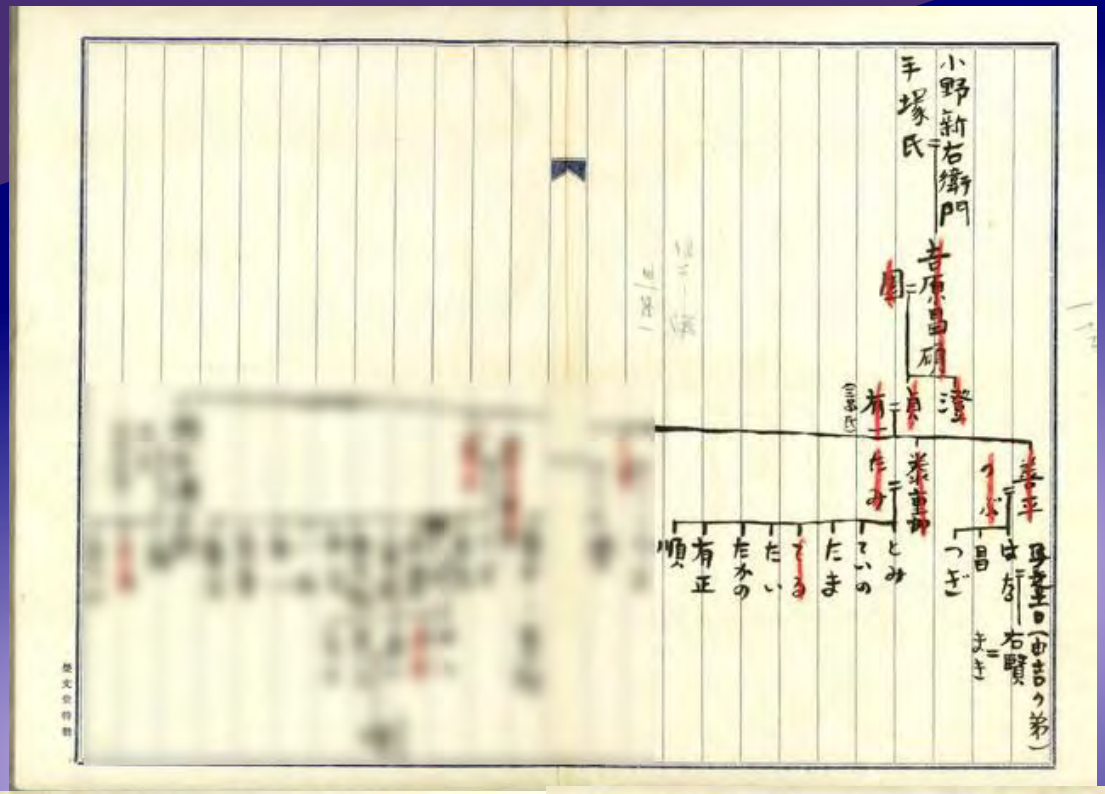
塾主吉原昌碩は和泉村の出　初め日光山実教院順周に和漢学を学び　医を東照宮侍医及び水戸の仁寿庵に学ぶ　文政年中（一八一八～）帰郷して吉沢荒神橋に漢方医を開業　傍ら和漢の学を近郷の子弟に教授する　昌磧塾の開設は天保年間と伝えられ　門下生に山久保の神官らがいる　妻園子は日本三女医の一人とうたわれた　吉沢新田に吉原昌磧翁碑が建てられている　泰重郎がそのあとを継いだのをはじめ　子孫のタカノ（野田姓）が住吉町に荒神橋産院　吉原重弥が東町に小児科吉原医院を開業している

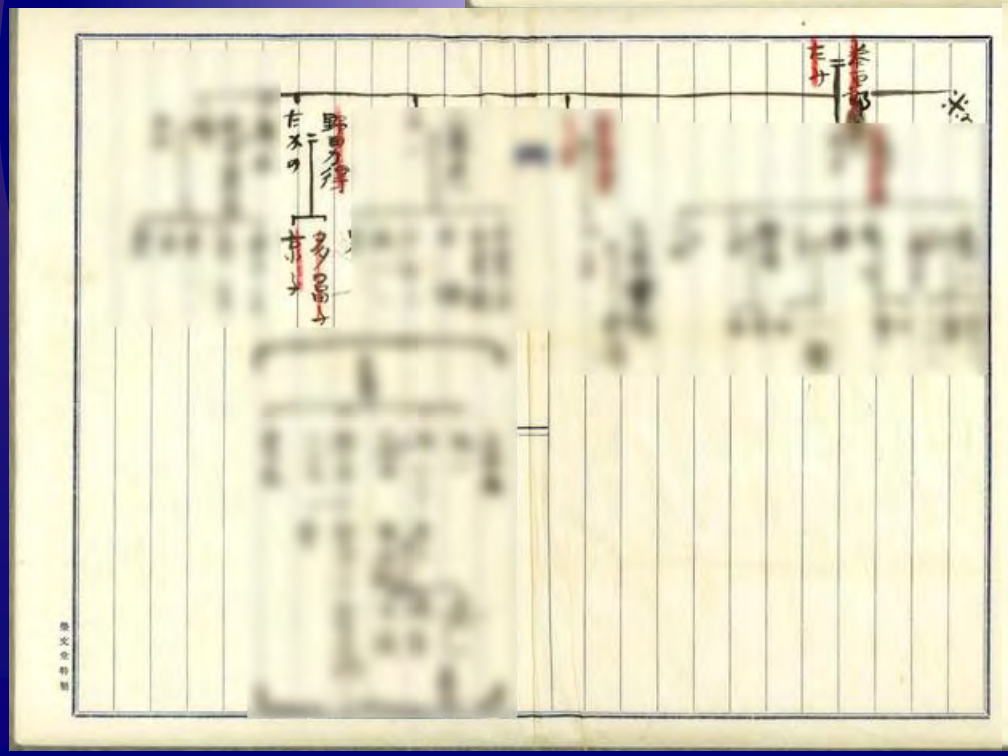
人物と世

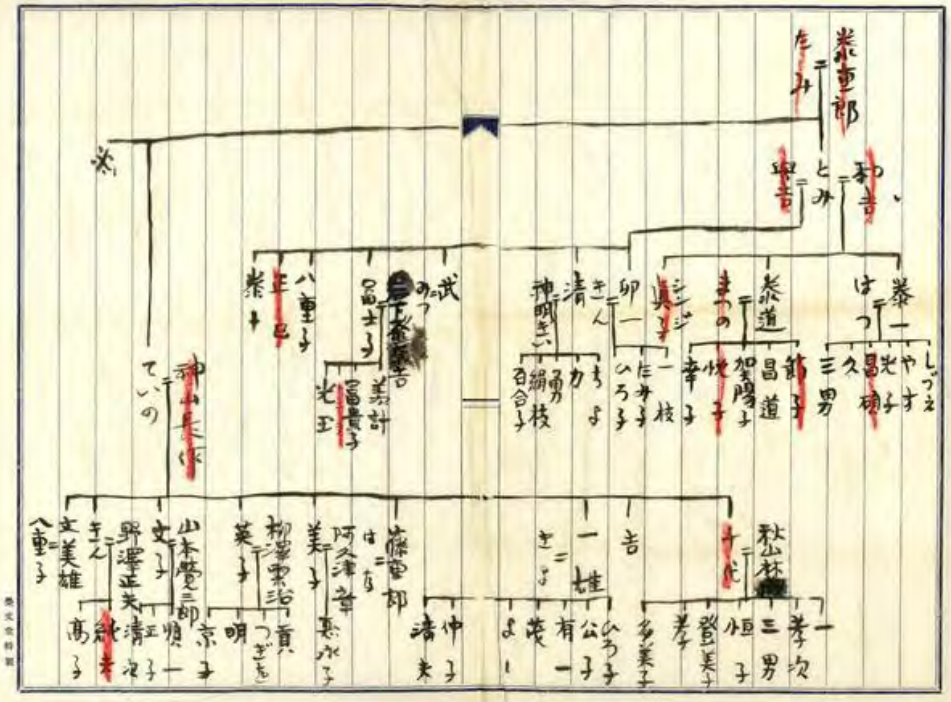
昌磧は和泉村（日光市）出身。八歳で日光山の僧に和漢学を、二〇年後東照宮侍医に医学を、さらに水戸の仁寿庵に産科学を学び、文政年間（一八一八～一八二九）帰郷。吉原家を継いで、吉沢の荒神橋付近へ開業した。かたわら近郷の子弟に和漢学を教えた。門前はいつも治療や学習者であふれた。学習者から戊辰戦に政府軍への参加者が多く出た。

明治に、塾は荒神大神近くで化龍館に。一時千本木へ移り吉沢小学校になった。子孫が、仲町で産科を東町で医業を継ぐ。

碑は、大正七年（一九一八）に加藤六池が建て、昭和六二年新里街道拡幅で現在地へ移る。


小野新右衛門
手塚氏
菅原昌碩
澄
有
真
紫重郎
善平
作み
とみ
ていの
たま
たいの
たみの
有正
順
てる
はな
昌
つぎ
右賢
まき
善吉（由吉の弟）


紫重郎
たみ
野口多津
たみの
多喜子


紫重郎
たみ
とみ
和吉
善吉
紫一
はつ
しづえ
やす子
光子
昌碩
久
三男
紫道
まつの
昌道
賀陽子
節子
紫子
幸子
シンジ
真子
一枝
たみ子
いろ子
卯一
きん
清
神明きい
勇
綱枝
百合子
カ
ちよ
武
みつ
紫子
正子
八重子
紫計
富士子
富貴子
光玉
神山長作
ていの
秋山林
三男
孝一
孝次
小夜子
登美子
孝子
多美子
ひろ子
公子
有一
茂
よし
一雄
きよ
吉
千代
藤重郎
はな
清夫
中子
阿久津幸
美子
美水子
柳澤栗治
英子
貢八
つぎを
明
京子
山本賢三郎
文子
順一
野澤正美
きん
清子
紀夫
文美雄
八重子
高子

栃木県歴史人物事典

下野新聞社

栃木県歴史人物事典

Historical Figures in Tochigi

下野新聞社

故里百話　今市の懐旧

渡辺武雄

故里百話　今市の懐旧

渡辺武雄

野田　タカノ（のだ　たかの）

一八八九（明治二二）～一九七一（昭和四六）　上都賀郡吉沢村（今市市）生まれ
助産婦、県産婆組合長、日本三婦協会県支部長

生家は旧御殿医の家系で、父泰重郎は医者。東京帝国大学医科付属病院産婆復習科を卒業後、一九〇九年（明治四二）今市町に荒神橋産院を開業。以来六〇年余にわたり助産婦一筋、二万二〇〇〇人を超える赤ちゃんを取り上げ、「荒神橋のおばさん」と慕われた。その間、県産婆組合長、日本三婦（助産婦・看護婦・保健婦）協会県支部長などを歴任、助産婦界の発展と地位の向上に大きく貢献した。

▽参考文献＝『郷土の人々（鹿沼・日光・今市の巻）』、渡辺武雄『故里百話今市の懐旧』

（半田　慶恭）

安産地蔵尊
安産地蔵尊

安産地蔵

土橋のお地蔵さん

小倉町五丁目地内の例幣使街道を横切る大堀川（赤堀川）に架かる土橋は、構造上の故の橋名であろうか、往時「シド橋」とよばれたこともあるといわれ、この付近一帯の地名を俗に土橋とよんでいた

この川の源流が日光鉢石の裡より流れくるものとされて志渡渕川といわれたところから、これに因んだ橋名とも解される。その川と道路の交わる左岸杉並木たもと川村氏所有地（今市一〇一番地）の一角に、地蔵尊が祀られていた。明治三十八年（一九〇五）十月二十三日吉沢の医師吉原泰重郎とその妻助産婦の多美子が、後産のおさめ所の傍らに亡き嬰児や水子の霊を供養し、安産子育・延命・二世安楽など現世利益（信仰の功徳が生きている間に実り、現世における欲望が達成されること）『岩波仏教辞典・中村元ほか編』）を祈って建立されたものである。翌三十九年には奇しくも愛娘六女のタカノ（のち野田姓）が産婆及び看護婦の国家試験に合格、四十二年には今市町において吉沢荒神橋の地名を冠した荒神橋産院を開業、以来六十余年にわたり助産婦一筋に生き二万二千人を超す赤ちゃんを取り上げ信望を集めた。

因みに荒神橋は吉沢村の東端、江川（いま田川）の例幣使道に架けられ室瀬村に境する。近くに鎮座する荒神大神からとられて命名されたと伝えられ、日光道中雑記に「小川ありて橋掛る、名詳ならず、石川なり兜川に流る」、また日光道中行程記安見絵図は室瀬川としてあり、正徳四年（一七一四）日光御法会のときには公儀が橋の架け替えを行っている。

川ありて橋掛る　名詳ならず　石川なり兜川に流る」　三月日光道中行程記安見絵図に

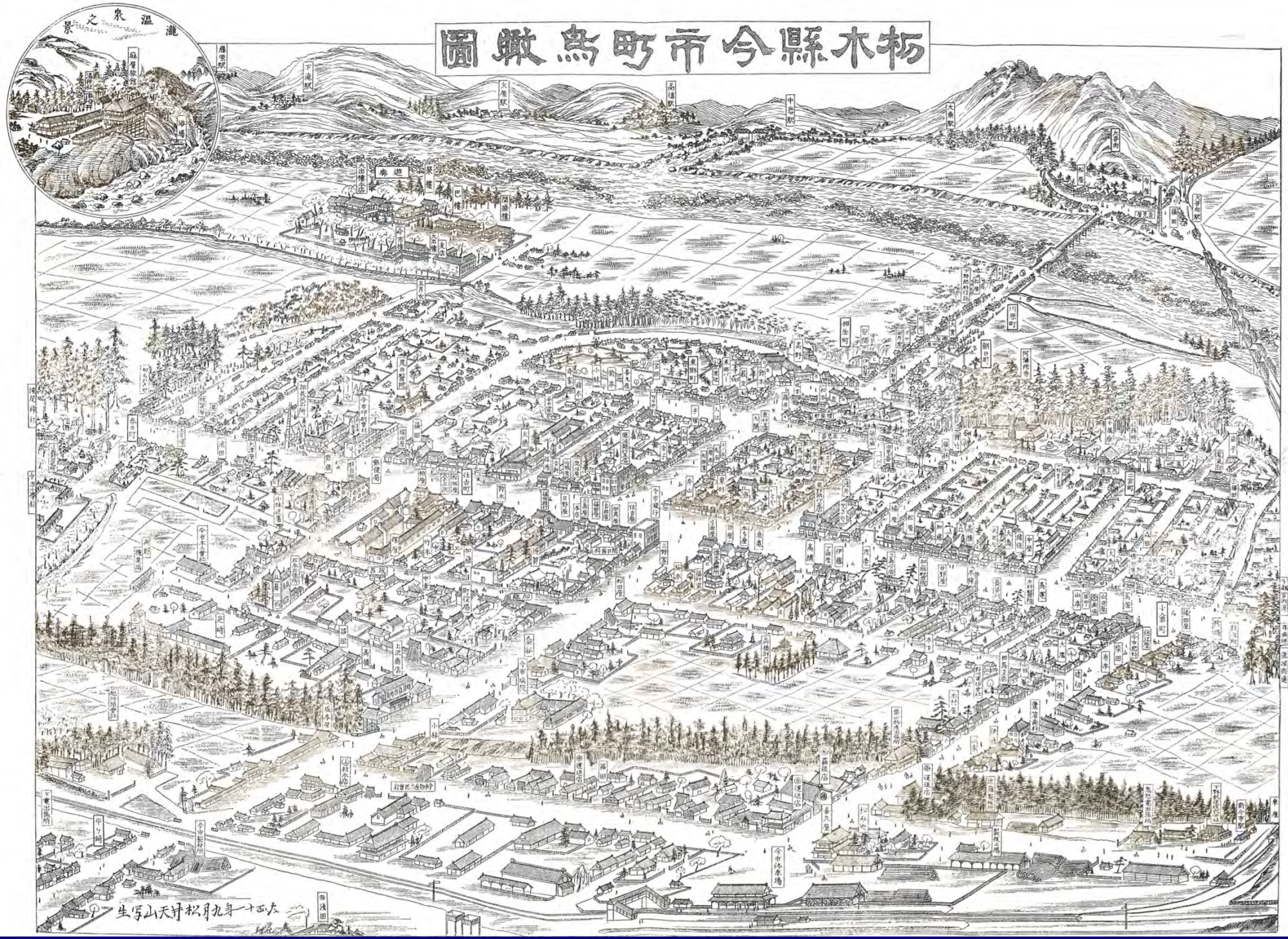
地蔵再建

平成十年駅間ＪＲ区画整理事業工事中土橋に近い深谷邸内から埋もれていた地蔵の台座が発見された。「明治三十八年十月二十三日安産地蔵尊荒神橋」の銘が刻まれた地蔵の台座発見の報が荒神橋当主の野田三郎、幸子夫妻のもとにもたらされた。

かつて祖父母が建立した土橋の安産地蔵尊が道路改修のため余儀なく遷座されることになり、偶々地蔵信仰に篤い深谷ハル氏によってひたすら守り続けられて平成十年六月三十日、九十四年ぶりに野田家に遷った。同年十月二十三日徳性院和尚を迎え、今市市歴史民俗資料館路傍の野田氏宅地（旧深谷邸跡）に堂宇を建て仮安置、平成十一年十月二十三日施主三郎・幸子夫妻親族、地蔵尊縁かりの人々が集い、導師徳性院和尚による入魂の儀式が厳修された。

小倉町の追分地蔵、如来寺の車止め地蔵、徳性院のひこ六地蔵、千本木のくさ地蔵、瀬川のしばられ地蔵、玄樹院の蔵助地蔵、回向庵の子育て地蔵などとならんで地蔵詣りの人々の香華がたえぬことであろう。

栃木縣今市町鳥瞰圖


瀧温泉之景
遊園
今市停車場
今市郵便局
今市病院
今市小學校
今市市場
今市信用組合
今市郵便所
今市電信電話局
今市警察署
今市消防組
今市市役所
今市市會議所
今市市場
今市停車場
今市市役所
今市市會議所
今市郵便所
今市電信電話局
今市警察署
今市消防組
今市病院
今市小學校

荒神橋
助産院

荒神橋

荒神橋のだ歯科医院

野田正和

URL : noda-dent.com

google で 日光 荒神橋 検索